

物品税競争における税率決定タイミングの内生化 ～電子商取引と仕向地課税のもとで～

森 風人*

概要

本稿の目的は、電子商取引と仕向地課税を明示的に考慮した環境下で、税率決定タイミングが同時となるか逐次となるか、また逐次の場合に、どちらがリーダーとなるかを明らかにすることである。あわせて、同時手番と逐次手番の下で均衡税率・税収がどのように異なるかを分析する。本稿では、電子商取引と仕向地課税を導入した二地域の物品税競争モデル (Agrawal and Wildasin, 2020) を用いて分析を行う。本研究で得られる主な結果は次の三点である。(I) 二つのシュタッケルベルグ均衡がサブゲーム完全均衡 (SPE) となること、(II) 大地域がリーダーとなるシュタッケルベルグ均衡がリスク支配均衡となり得ること、(III) 大地域がリーダーとなるシュタッケルベルグ均衡において、大地域高税率のルールが成立し得ること、である。以上より、本稿は電子商取引を含む物品税競争モデルでは税率決定の同時手番を前提とすることは自明ではなく、逐次手番が均衡として選択され得ることを示す。

Keywords : E-commerce, Endogenous timing, Commodity tax, Tax competition

*名古屋大学 経済学研究科 博士前期課程 2 年, E-mail : mori.futo.c2@s.mail.nagoya-u.ac.jp